

平成27年度宮沢賢治イーハトーブ館運営審議会 会議録（全体）

日 時：平成27年5月16日（土）午前10時10分開会、午前11時50分閉会

場 所：宮沢賢治イーハトーブ館講義室

出欠者：出席委員 阿部委員、高橋委員、伊藤賢治委員、伊藤諒子委員、小原委員、岩田委員、
多田委員

欠席委員 岡村委員、大原委員、浅沼委員

説明者 細川生涯学習部長、藤井副館長

1 開 会

2 あいさつ（概要）

細川生涯学習部長

宮沢賢治記念館がリニューアルオープンした。マスコミに対し周知に努め、マスコミにPRしていただいた。

来年は、宮沢賢治生誕120周年となるが、内容はこれから詰めていく。

宮沢賢治イーハトーブ館は、建設後22～23年が経過し、施設・設備が老朽化している。ホールのプロジェクターは更新したし、暖冷房の修繕を行う。

宮沢賢治イーハトーブ館は、設立の原点を踏まえ、新しい時代に向けて、宮沢賢治記念館と連携しながら、市民の出入りができるようイーハトーブ館のあり方を探っていく。

3 議 事（概要）

岩田会長あいさつ

メインの展示は心象世界で、解説が難しい。新しい人には難解で、ガイドの研修が必要であり、これからの大事だ。

岩田会長が議長になり議事を進行（宮沢賢治イーハトーブ館管理運営規則第6条第2項）

(1) 平成26年度宮沢賢治イーハトーブ館の事業報告について

藤井副館長

平成26年度年報の館の運営の概要、入館者数の資料等により、平成26年度事業概要を説明した。

高橋委員

26年度はホールの使用は増えたか。入場料の徴収の取扱いはどうか。

藤井副館長

コンサートや防災一人語り公演、教育委員会の研修会の利用など、利用は増えていると感じている。使用の取扱いの方針を定めている。入場料は無料を原則としているが、主催者から予算書を提出してもらい、音響や調律、旅費等の実費に充てることを確認でき

る場合は、入場料の徴収も可としている。

細川生涯学習部長

イーハトーブ館のホールは貸すことを前提にしていない。興行、貸し館にならないよう、実態に合う形で運用していきたい。実費相当程度の入場料の徴収はいい。利用の仕方は、今後も調べさせていただきたい。

高橋委員

矢巾町（東京の劇団で団員が矢巾町にいる。）の「風の又三郎」は釜石で上演した。足代だけでも徴収してもいいのでは。

細川生涯学習部長

利用者が納得できる説明が必要だ。500人規模の中ホールの要望がある。

小原委員

東和の方の考え方は、街かどギャラリー等に見受けられるようにオープンだ。旧花巻市は親切でなく、東和町に居住した例がある。市はルールでしぼりがきつい。池袋の庁舎の話のように、発想を生かすことが必要だ。

多田委員

春季セミナーの鬼剣舞のドキュメンタリー映画の上映は良かった。年に4、5回でもいいから、こうした上映があればいい。

藤井副館長

アニメーション等は7本上映しているが、メニューが固定化している。新たなメニューの追加や、年に何回かの上映について考えていきたい。

阿部委員

賢治まちづくり課のアニメフェスティバルでアニメを上映した。ここで上映することも考えては。

細川生涯学習部長

短編映画とか、バリエーション、メニュー、企画ものとか相談、検討していきたい。

岩田会長

春季セミナーの片田さんの話は良かった。参加者が少なくもったいなかった。市民が関心を持つよう、行事をアピールしては。

藤井副館長

企画展やセミナー、ホールの催しものは、広報はなまきや市ホームページ、ポスター、チラシ、学会のセンター日より、ホームページ等により周知している。今後も周知を図っていく。

多田委員

広報を見る市民の意識の低さもあるのでは。

高橋委員

イーハトーブ館への足の確保の問題がある。館を知らない人もいる。

岩田会長

賢治学習の取組みについて、学校の先生への働きかけが必要だ。

伊藤諒子委員

風のセミナーを開催してよかった。ホールで朗読するチャンスがあればいい。
岩田議長（会長）

それでは、平成26年度事業報告はこれでよろしいですね。

(2) 平成27年度宮沢賢治イーハトーブ館の事業計画について

藤井副館長

平成27年度宮沢賢治イーハトーブ館の事業計画（案）により計画概要を説明した。

資料以外には、平成27年度の施設・設備整備予定と、今後、外壁の改修や屋上の防水修理工事を実施していきたいことを説明した。

阿部委員

定期大会後の学会の懇親会に市民が集まらなると。郷土食コーナーは、農協の女性部の協力をいただけるのでは。

伊藤諒子委員

市民が自由に参加できる働きかけをしては。地元の話を知りたいとの声がある。

藤井副館長

私は学会の事務局にもなっているので、学会で協議していく。

伊藤賢治委員

広報の活用、えふえむ花巻の活用を図っては。

藤井副館長

平成26年度からは、学会の主催するもの以外のホールの催しものについても、できるかぎり広報に掲載するようにしている。えふえむ花巻も活用している。

岩田会長

テレビの活用は。

細川生涯学習部長

結構お金がかかる。取材の働きかけ、PRは大事だ。

高橋委員

まなび学園は高齢者の利用が多い。チラシを置いてはどうか。

藤井副館長

企画展のポスターやセミナーのチラシを置いて、事業の周知を図っている。

阿部委員、高橋委員

館の行事について、記念館や博物館、童話村と共同の掲示場が入口附近、どの場所とは特定ができないが、あればいい。

小原委員

セミナー・定期大会等の際に、全国各地の方の宿泊の確保が大変との声を聞く。民泊を考えてはどうか。

高橋委員

温泉との兼ね合いもあり、難しい。

藤井副館長

個人や賢治の会等の個別の交流の中で取り組んでもらえたらと思う。学会事務局の調

整は難しい。

岩田会長

生誕120周年記念事業は、PRできるものを希望する。

大原委員から、市職員の学会入会者が減少している、会員増を目指すべきとの意見があった。

伊藤賢治委員

花農卒業生も会員にあまりなっていない。石鳥谷賢治の会も、若い方の加入が少ない。

小原委員

学会のイメージは、学会という名称からも固い。

阿部委員

議会の理解も必要だ。

藤井副館長

学会は、名称にイーハトーブセンターを付けているように、研究者ばかりでなく愛好者も会員になっていただきたいとの趣旨で設立されている。会員の加入のため、学会のPRに取り組んでいくし、会員の取組みも期待している。

伊藤諒子委員

小中学生ももっと加入してほしい。

阿部委員

先生への説明、理解が必要だ。

高橋委員

平成27年度の職員体制について説明してほしい。

藤井副館長

学会を含む平成27年度の職員体制を説明

岩田議長（会長）

それでは、平成27年度事業計画はこれでよろしいですね。

4 その他

協議事項等なし。

5 閉会